

## 関連文化財群

『豊川市文化財保存活用地域計画』では、市域に点在する様々な文化財を地域の歴史文化の特性と関連付け、一定のまとまりとして捉えた6つの関連文化財群を設定しています。御津中学校区域の関連文化財群は下記のとおりです。

### 関連文化財群② 数多く築造された多彩な古墳

ストーリー	前方後円墳である船山古墳や、巨大な横穴式石室をもつ穴観音古墳、山地の斜面に群集する横穴古墳群など、数こそ少ないながら、それぞれ特徴のある古墳が分布する区域となっています。	
関連文化財群の主な構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;市&gt; 船山古墳</li> <li>● &lt;市&gt; 横穴古墳群</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;市&gt; 穴観音古墳</li> </ul>

### 関連文化財群⑤ 戦国時代から江戸時代までの支配の変遷を物語る文化財

ストーリー	<p>戦国時代、地域では牧野氏などが台頭しましたが、後に今川氏、ついで松平（徳川）氏の領国支配に組み込まれ、長沢松平家の領地となりました。その頃、大恩寺は牧野氏や松平（徳川）氏の庇護を受けて発展しました。</p> <p>家康の関東移封後は、吉田城の池田照政の支配となりましたが、江戸時代には幕府領・旗本領・藩領などが複雑に入り組み、その支配関係は多岐に変遷を重ねました。</p>	
関連文化財群の主な構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;国&gt; 絹本著色王宮曼荼羅図</li> <li>● &lt;県&gt; 大恩寺山門</li> <li>● &lt;県&gt; 蓮の図</li> <li>● &lt;県&gt; 阿弥陀廿五菩薩来迎図</li> <li>● &lt;市&gt; 大恩寺文書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;市&gt; 茂松城跡</li> <li>● &lt;市&gt; 竹本城跡</li> <li>● &lt;市&gt; 西方古壘跡</li> <li>● &lt;市&gt; 佐脇刀祢太夫の墓</li> <li>● 忠勝寺と森寺忠勝の墓</li> </ul>

### 関連文化財群⑥ 豊川海軍工廠と豊川市

ストーリー	豊川海軍工廠を守るため、大恩寺山頂に三基の高角砲台が設けられました。左右両端の砲台には各一門の高角砲が置かれ、中央の砲台は予備のものでした。昭和20（1945）年8月7日、豊川海軍工廠への空襲に向かう敵機を攻撃しましたが、十分な成果は得られませんでした。また、このとき西方 <sup>にしがた</sup> や上佐脇に爆弾が投下され、死傷者を出しています。
関連文化財群の主な構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大恩寺山砲台跡</li> </ul>

## 様々な取組主体

### 御馬笹踊七福神踊保存会

8月第一土日の引馬神社・八幡社の祭礼時に奉納される笹踊りと七福神踊りの保存のための活動を行っています。竹の横笛を自分で作り、演奏を練習し、当日祭礼に参加する講座を小学生対象に開催しています。

### 赤根獅子舞神楽保存会

4月最後の土日、萩原神社の祭礼時に奉納される獅子舞神楽の保存活動を行っています。

### ⑬八幡社



七福神踊り

### ⑯引馬神社



笹踊り

<市>引馬神社八幡社の祭礼

## 豊川市文化財保存活用地域計画 【御津中学校区】

令和7年 豊川市

### ⑧萩原神社



<市>萩原神社祭礼の獅子舞神楽

### ⑱長松寺



どんき

## 自然的・地理的環境

御津中学校区は、豊川市の南西部に位置し、南で豊橋市、西で蒲郡市と境界を接しています。北西部に山地や扇状地、南東部に小坂井側から続く台地や臨海低地が展開し、南西辺の一部は三河湾に面しています。

地域の東西をJR東海道線が貫き、愛知御津駅を中心に市街地が形成されています。海岸線に沿う国道23号が幹線道路となっており、（主）東三河環状線を介して国道1号と接続しています。令和6（2024）年度中に全線開通する国道23号名豊道路には、御津金野ICが設置され、さらなる広域交通の発展が見込まれます。

## 歴史的環境

音羽川右岸の微高地に位置する長床遺跡から出土した弥生土器は、東三河における弥生時代中期の標識となっています。北部の山地からは銅鐸が発見され、古墳時代には船山古墳や穴観音古墳が築かれ、古代寺院も建てられていました。

大宝2（702）年の持統上皇三河行幸のときの上陸地点が、音羽川の河口部に比定されています。「御津」という地名は、平安時代の『和名抄』にも記され、その由来は三河国府の外港に因むものと思われます。

戦国時代には牧野氏が台頭しましたが、やがて今川氏に取り込まれ、後には松平（徳川）家康の支配となりました。江戸時代には、三河五箇湊のひとつである御馬<sup>おんま</sup>湊が幕府領の年貢米の積出し拠点として重要な役割を果たしていました。

明治21（1888）年に東海道線が開通すると、御油（御馬）海岸は海水浴避暑地として賑わいましたが、昭和28（1953）年の台風13号や、昭和34（1959）年の伊勢湾台風の被害を受けて、海岸線の景観は大きく変わりました。

## 歴史文化の特性

三河湾との関わりのなかで生活が営まれ、陸と海の交通網を基盤に、歴史文化を育んできた地域といえます。

# 文化財の概要

校区の指定文化財等は、52件です。社寺が所有する美術工芸品や巨樹、祭礼行事などです。御津町史や既存の文化財関連調査、市民を対象に実施したアンケート調査から把握した未指定文化財（歴史文化資源）は、28件あります。

④<市>穴観音古墳



②<市>竹本城跡



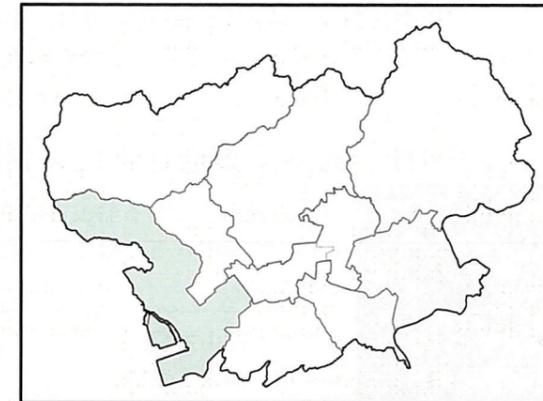
①<市>船山古墳



⑳<市>観音寺の大クス



⑲<市>佐脇刀祢大夫の墓



<国>木造千手観音立像

⑩海岸復興記念碑



⑥<市>松沢寺のヤマザクラ



⑪大恩寺



<国>絹本着色 王宮曼荼羅図



<県>大恩寺山門



<市>御津山のヒメハルゼミの棲息地

<市>丹野城跡

<市>弥勒寺跡

<市>茂松城跡

<市>長床遺跡

<市>西方古塁跡



<市>御津神社の梵鐘



<市>御津神社のクスノキ

⑭<市>御馬湊 付御城米積立場跡



種別		国指定等	県指定	市指定	合計	未指定文化財等	
有形文化財	建造物	3	1	1	5	8	
	美術工芸品	絵画	1	2	2	5	0
		彫刻	1	1	0	2	1
		工芸品	0	0	7	7	0
		書跡・典籍	0	0	5	5	0
		古文書	0	0	0	0	1
		考古資料	0	1	1	2	0
歴史資料	0	0	0	0	3		
小計		5	5	16	26	13	
無形文化財		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	1	1	2	0	
	無形の民俗文化財	0	0	3	3	0	
	小計	0	1	4	5	0	
記念物	遺跡	0	0	15	15	4	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	6	6	8	
	小計	0	0	21	21	12	
文化的景観		0	-	-	0	1	
伝統的建造物群		0	-	-	0	0	
その他 (市独自の設定)	史話と伝承	-	-	-	-	1	
	工廠遺産	-	-	-	-	1	
合計		5	6	41	52	28	